

雅楽だより

《目次》

- 焼却炉の建設は撤回されました
- 天と地をつなぐ音楽
- シルクロードの筆箋の仲間たち
- 高等学校音楽科での筆箋を使った授業の紹介

東儀道子
中村仁美
渡部聰
1 1 2 4

- 佐波理の合成について
- 現代語訳『楽家録』(12)
- 情報欄

上野秀夫
遠藤徹
5 5 6

第50号
発行

2017(平成29)年7月
雅楽協議会

上牧・鶴殿ヨシ原近く 焼却炉の建設は撤回されました

引き続き署名活動にご協力を
よろしくお願いします。

事業主が計画を「断念」

昨年の暮れ、筆箋用のヨシの生育地である大阪、上牧・鶴殿ヨシ原近く、農地も学校もある住宅街に特別産業廃棄物焼却炉の建設計画のあることが分かりました。

地元住民の方々や雅楽関係者の建設反対の署名活動などが進んでいく中、5月29日事業主である都市クリエイトは、「諸事情により焼却炉の計画を断念する」旨の文書を高槻市長宛に提出し、この焼却炉の建設は撤回されました。

計画されていた焼却炉は一般ごみや普通の産業廃棄物焼却炉では焼却できない「健康や環境に被害を及ぼすおそれのある廃棄物」も含む「特別管理産業廃棄物」及び「感染性廃棄物で病院などから出る感染性ウイルスも含まれているもの」の焼却も行うというもので微量でも毒性の強いダイオキシンの飛散の可能性もあるといわれている焼却炉でした。

上牧・鶴殿ヨシ原から800mの地に

焼却炉建設の予定地は、ヨシ原からは約800m。国道171号線沿い。周りには保育所、幼稚園、小中学校、高校などが11もあり、農地も広がる住宅街で「学校や農地の広

がる文教住宅街に建設するなど例がない。」と

いう住民の質問に、事業者は「新名神が出来るので便利だから」と回答。今後は高速道を使つて全国から産廃が集められここで燃やされるのではと心配されていました。

条例制定へ 署名は継続して

地元住民の方々で結成された「産廃焼却炉

対策協議会」は短期間に8万8千余の署名を集め今後について「今回は1件の焼却炉建設が断念されたにすぎません。これから先、今回ののような無謀な建設計画が行われないよう高槻市議会に条例制定の陳情書を提出しました。従来にもまして今回のような焼却炉建設反対を訴え、署名は継続します」と呼びかけています。

私たちも地元の方々と共に筆箋用ヨシの唯一の生育地であるヨシ原を後世に伝えていくためにも署名活動を続けていきます。

署名用紙は雅楽協議会のホームページよりダウンロードできます。

天と地をつなぐ音楽

東儀道子



東儀道子氏

近年、「雅楽つて皇室の音楽でしょ」と言ふ声を聞く。確かに、大和時代より、中国大陸や朝鮮半島から渡つて来た音楽を重用し、一方、古代からの祭祀樂などを、自らも演奏し、官府の部署として雅樂寮を設け、雅樂全體を庇護して来たのは、天皇家と支配階級であつた。中でも、「御神樂」は宮中祭祀音樂の中でも清淨・崇高・幽邃な樂舞であつて、

が始まつて間もなく耳に入る筆箋の音に抵抗を感じる方は、少なくないであろう。もちろん、それはすぐに笛や笙の音、そして筆箋自身による、美しい調和の音楽へと移行していく。このことに注意したい。

これら三管の特徴について「笙は天の音、筆箋は人の声（また地の声とも）、笛は天と人の間を行き来する龍の声」というような解説がある。私は長い間、それを三管の音色の單なる譬えと思ってきたが、それは浅薄な理解



足柄山で秘曲の伝授の図(部分)
(豊英秋氏蔵)

平安時代には、清少納言のように簞篥嫌いの人がいる。「簞篥は大変やかましく、秋の虫なら、この轡虫の感じで、不快で、近くでは聞きたくない」と言う。しかし、この簞篥嫌いが(賀茂の)臨時の祭の日に、まだ天皇の御前に出る前、ものかげで横笛をたいそう素晴らしく吹いている。何と素晴らしいと聞いていると、半ばころから簞篥がその笛に寄り添つて吹き昇る、それこそだもう素晴らしく」と続けて言うのである。ここに人の声とされた簞篥が笛の音と共に、地から天へ昇華するさまが、生きいきと描かれている。

また、志賀の僧正明尊という人も大の簞篥嫌いであった。ある月の夜、用枝という簞篥の名人の演奏を聴いて僧正は感涙を抑えられ

であつた。簞篥は人の声であるという。人は美・清・善を貰っていると同時に、醜・濁・惡そのもの、あるいはその可能性を併せ持つてゐる。簞篥が人の声と言われるのは、そのことを言つてゐるのではなかろうか。

□

笛はいつでも美しい。それが人の力を超えたものと感じられることは稀ではない。例えば、雅楽の万能選手のような源博雅が月の明るい夜、直衣姿で朱雀門のあたりで夜通し笛を吹いた。すると、同じ直衣を着た男が笛を吹いている。それはこの世のものでないようによつて吹いたが、試しに笛を取り換えた。博雅の没後、淨藏という者にその笛を吹かせると朱雀門の楼上から「やはり、素晴らしい」と褒める声がした。それで、鬼の笛であつたことがわかつたといふ。

笛はいつでも美しい。それが人の力を超えたものと感じられることは稀ではない。

笛はいつでも美しい。それが人の力を超えたものと感じられることは稀ではない。例えば、雅楽の万能選手のような源博雅が月の明るい夜、直衣姿で朱雀門のあたりで夜通し笛を吹いた。すると、同じ直衣を着た男が笛を吹いている。それはこの世のものでないようによつて吹いたが、試しに笛を取り換えた。博雅の没後、淨藏という者にその笛を吹かせると朱雀門の楼上から「やはり、素晴らしい」と褒める声がした。それで、鬼の笛であつたことがわかつたといふ。

□

笙が天上の音楽のようであることは言うまでもない。後三年の合戦の折、新羅三郎義光

(佐竹氏の遠祖)が兄八幡太郎義家を助けるために戦場に急ぐ途中、足柄山で遂に秘曲「太食調(太食調入調)」の伝授を受けたといふ豊原時秋(あるいは父の時元とも)の故事もある。命がけで伝授を乞うほど、秘曲の伝承は尊いのであつた。足柄山



平成2年、大嘗祭のために皇居宮殿で悠紀国風俗舞の装束を着けた故東儀俊美氏

(とうぎみちこ 一九三〇年、札幌市生まれ)

の秘曲伝授を描いた絵は秋田市立千秋美術館にも所蔵されている。この曲の趣きを伝えていると言われる「太食調(太食調入調)」の一部を、今回、時秋の子孫である豊英秋氏に特別演奏していただくと聞いている。氏の演奏は伝統楽曲に限らず、現代雅楽曲の笙演奏も技術を尽くし、心を尽くして素晴らしい。

ところで、古来、雅楽は屋外の庭上で行われ、鑑賞は御殿内からなされた。管絃は御殿内で演奏も鑑賞も行われた。そのいずれの場合も、自然の外気、特に松風や山風を感じながら演奏するのが理想であった。樹風の可聴音はもとより、超音波・高周波も無意識のうちに体感され、それらと協奏し得た時の演奏こそ、まことに雅楽とされたのであつた。秋田の樹風はどんな超音波・高周波を含んでいいのだろうか。平成の大嘗祭の悠紀田は秋田で、その風俗歌舞を亡夫東儀俊美が作曲・作舞した。その秋田に雅楽が花開くことを彼方から願っていることと思う。

(4月22日 秋田での雅楽レクチャーコンサートプログラムより転載)

笙が天上の音楽のようであることは言うまでもない。後三年の合戦の折、新羅三郎義光(とうぎみちこ 一九三〇年、札幌市生まれ)

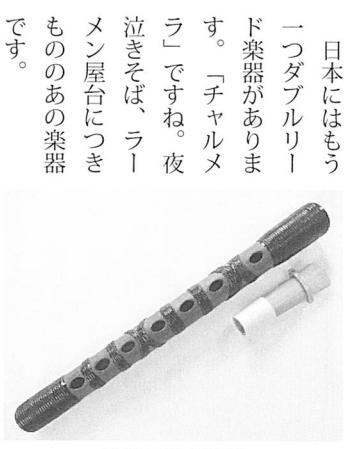
お茶の水女子大学教育学部哲学科卒。元早稲田大学社会科学院特別研究員。宮内庁式部職業部元首席楽長・日本芸術院会員の故東儀俊美氏の夫人。著書に『雅楽の心性・精神性と理想的音空間』ほか。宇治市在住。)

シリクロードの簞篥の仲間たち

中村仁美(雅楽演奏家)

「簞篥」は独特的の音色を持ち、雅楽の旋律を吹く樂器ですが、樂器分類ではダブルリード樂器とされています。ですから、よく西洋のオーケストラで用いられるオーボエやファゴットの仲間だと紹介されますね。でも、オーボエと簞篥ではあまりに音色が違うと思いませんか?

吹き口のリードを比べてみると、簞篥のリード(蘆舌)は太くて大きく、本体の管の3分の1位あります。それに対してオーボエのリードは幅が細くて、大きな本体の管に比べたらとても小さいのです。リードと管の大きさ比がこんなに違うのに、本当に仲間かしら?



簞篥の管と蘆舌

日本にはもう一つダブルリード樂器があります。「チャルメラ」ですね。夜泣きそば、ラーメン屋台につきものあの樂器です。

チャルメラのリードは、下の方を細く縛つた小さい逆三角形の形で、それを差し込む管の上端の内径は3mm位ととても細いのです。ただし、内径は下へ行くほどだんだん広がつて行く朝顔形。樂器学で言えば「開管」の管樂器ですから、同じ運指で1オクターブ上の倍音が出ます。西洋のオーボエは実はこのチャルメラの仲間なのです。トルコの軍樂隊で用いるズルナ、中国のスオナもこのチャルメラと同じ系統の樂器です。

それに対して筆箋のリードは太くて幅が1cm以上あり、それを差し込む管の上端の内径は14mm程もあり、下に向かっても太さが変わらない筒形の試験管のような形です。「閉管」と呼ばれる管樂器なので、同じ運指で倍音を出すと1オクターブ半上の音が出るのです。といつてももちろん、古典曲で倍音を出すことはありませんけれども。

つまり、チャルメラやオーボエのように、細くて小さなリードを、朝顔形の管につけて吹くダブルリード樂器と、筆箋のよう、太くて大きなリードを筒形の管に付けて吹くダブルリード樂器は、別系統の樂器なのです。だから音色も吹き心地も随分違うのですね。

このうち筆箋系の樂器は、西洋音樂では用

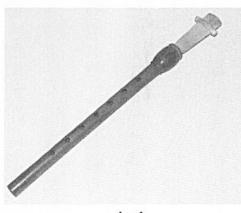
いられないようですが、西～中央アジアにはアルメニアのドウドウク、トルコのメイ、イランやアゼルバイジャンのバーラーバーンなどがあり、東アジアには、中国の管子、朝鮮半島のピリなど、同属樂器がたくさんあります。

筆箋は中央アジアあたりからシルクロードを渡つて日本にやつてきた、と言われますがアルメニアのドウドウクは紀元前からあると言われているそうです。また、唐の時代には亀茲樂、西涼樂、疎勒樂、安國樂、高麗樂、高昌樂で筆箋が用いられていましたといいますから、千数年前には、きっと民族や地域ごとに特色のある「筆箋」があつたのでしょうか。

筆箋は、中央アジアから砂漠を越え海を越えて、遠くシルクロードの東の端にたどり着いた樂器ですから、他の同属樂器とは違いうるいろな日本独特的特徴が見て取れます。まず管の材質ですが、中央アジアのドウドウクやメイなどがアンズの木で作られているのに対して、筆箋は竹でできています。日本に沢山生えている竹は、中が空洞で笛作りに適していたのでしょう。

この竹の管をそのまま用いるのではなく、樺巻や漆を施しているのが日本の筆箋の特徴です。割れるのを防ぐと共に、重みをもたせて音色を良くするためかと思われますが、桜の樹皮を細く切り、つなげて糸のようにして巻き、何度も漆を塗り重ねて工芸品のように仕上げる所に、繊細な手仕事に長けた日本人らしさを見るような気がします。

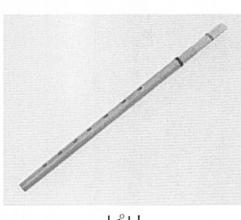
樂器の長さも違います。ドウドウクやメイは、日本の箇笛と同様、歌などの音高に合わせて、高さ(長さ)の異なる何本もの樂器を使い分



メイ



管子



ピリ

けていますが、最も短い樂器でも筆箋ほど短いものはありません。日本でも平安時代までは大筆箋があつたことですから、中央アジアの長い樂器も伝わっていたのかもしれませんが、高音域を出せる短い樂器だけが残つたようです。

復元して大筆箋を吹いてみると、低音が響く魅力的な樂器に思えるのですが、当時の日本人は高音の方が好きだったのでしょうか。あるいは野外での舞樂では、高音のほうが音が通つて良かつたかもしません。いつの間にか低音樂器は不要とされてしまったのです。

筆箋は、奏法によつても違つてきます。たとえば中国の管子奏者が日本の筆箋を吹くと、同じ樂器なのにまるで中国音樂のような音色になつてしまします。

以前トルコでメイを初めて吹いた時に、筆箋のようにリードをくわえ込んで思い切り息を入れて吹いたら、「違う違う、口にくわえるのは3mmだけだよ。こうやつてビブラートを付けて吹いてごらん!」と先生に指導されました。あまりの吹き方の違いにびっくりしたことありました。

同属樂器の多くは舌をリードに付けてタンギングをしますし、ビブラートで音を揺らし時に循環呼吸で息継ぎなしに長く吹き続けることもあります。こうした奏法は筆箋にはありません。筆箋は、海の向こうの同属樂器とは違う発展を遂げ、今の形と音になつたのです。

各地に今も残る同属樂器のことを知れば知るほど、日本の雅樂の筆箋の音は、長年の間に日本人が好みと必要に応じて作り上げてきましたものなのだと思います。

千数年前、海を渡つて到着したばかりの筆箋の形と音色はどんなだったのでしょうか。奈良の都に響いていた筆箋はどんな音だったのでしょうか。今は残る同属樂器を手掛かりに想像を膨らませてみるのも楽しいですね。

(浜松市樂器博物館編「浜松市樂器博物館総

色が違うから材料や作り方を変えたり、樂器を淘汰するということもあつたかもしれません。もちろん音色は、奏法によつても違つてきます。たとえば中国の管子奏者が日本の筆箋を吹くと、同じ樂器なのにまるで中国音樂のようになります。

もちろん音色は、奏法によつても違つてきます。たとえば中国の管子奏者が日本の筆箋を吹くと、同じ樂器なのにまるで中国音樂のようになります。

合案内」2015掲載「筆箋～シルクロードの同属楽器たち～」に大幅に加筆した。)

高等学校音楽科での

筆箋を使った授業の紹介

東京都立若葉総合高等学校 渡部 聰

高等学校音楽科の学習指導要領に和楽器の実習が盛り込まれてから15年になります。音楽科の授業で和楽器を扱う学校は確実に増え来ましたが、学校での和楽器というと、やはりお箏が最も多く、次いで三味線、和太鼓などとなり、雅楽器を扱っている学校はほとんどないようです。私は都立広尾高校在任時に始めた筆箋の実習を、かれこれ17年続けてきました。珍しさから生徒の関心も高く、難しい楽器であるがゆえに、逆に音が出た時の喜びも大きく、達成感を感じてもらえる授業となっています。この紙面をお借りして簡単に紹介させて頂きます。

都立若葉総合高等学校は、創立13年目のまだ若い都立高校です。梨や葡萄の栽培が盛んなゆるやかな丘陵地帯が広がり、「東京のブルゴーニュ」とも呼ばれる稻城市にあります。総合学科ということで、キャリア教育を重視したカリキュラムに特色があり、生徒は幅広い選択科目から自分の興味関心や進路に応じて授業を選ぶことができます。

高校1年生の「音楽I」の授業。2時間統きの前半1時間で筆箋を、後半は普通の歌唱や合唱を行います。9月までの約12回の授業

で古典の「平調越殿樂」を唱歌から学習し、最後の実技試験では自由曲を1曲演奏するのが課題となります。「筆箋は難しい楽器で、リードを馴らし、育ててゆくのが大切です。」と強調しておきます。高校生も忙しい現代：すぐに結果が出るものばかり重視される世の中ですが、だからこそ自然の素材と向き合い時間をかけて馴らしながら、こちらも慣れてゆくという「美しい歩み寄り」のプロセスをぜひとも生徒に体験させたいと思っています。

筆箋はプラス管とリードのセットを全員に購入してもらいます。楽器の値段としては安価ですし、同じ芸術科の美術や書道で道具を揃えることを考えればけつして突出した額ではありませんが、やはり教材費としては高額なので入学前に保護者向けて案内を出します。

授業の最初にお茶を入れてまつたりできるのが珍しく、筆箋ならではです。生徒は思い切って湯飲み茶碗を持参します。最初はリードだけ鳴らす練習をしますが、初回で音が出来る生徒は40人中2~3人です。回を重ねるごとに徐々に増え、4回目あたりで出ない生徒が5~6人という状況です。1本1本手づくりのリードですので、どうしてもバラつきは避けられません。鳴りにくいリードは後ほど教員が削って調整します。

音が出たら次にリードだけで音を上下させる練習です。まずは「クイズタイム」と称して私がリードで喋った単語を当てさせます。「今日は野菜編で行きますよ。△△・△△ー」

「わかった！ ブロッコリー！」「ピンポーン！」じゃあ次は△△ー△△△」「サニーレタス！」などと元気よく答えてくれます。「こんどは隣の人とリードで会話タイム！」：なかなか難しいですが、楽しく盛り上がります。

越殿樂は唱歌から学習します。歌って覚える伝統的な優れた学習方法をぜひ体験させたい、という目的もありますが、まだ音が出ない生徒も一緒に学習できるというところが大きなメリットです。1学期末までには、越殿樂2行目まで覚えて歌えるようになります。歌いながら運指を行なう練習も並行して行います。

筆箋は「虫の光」を吹きなさい、という目的で、校内を練り歩き一般客の退出を促す、という企画を行い、注目を集めました。

生徒には毎年アンケートを実施していますが、ほとんどの生徒が「難しいし、息も苦しく大変だったけれど、珍しい楽器を経験できてよかったです。」「苦労したけれど楽しめました。機会があつたらやってみたい。」などと好意的な感想を書いてくれます。やつた甲斐があつたと元気づけられます。結果的に雅楽の裾野をほんの少しでも広げることに役立ちたら、と常々思っています。本校では、2・3年次の選択科目でお箏と三味線の授業を選択でき、市民講師の先生から本格的に習うことができます。これらを取った生徒は日本音楽の豊かな広がりを身を持つて体験することになるでしょう。

筆箋の授業が終わると本校では次にヴァイオリンの実習に取り組みます。こちらも難しい楽器ですが、筆箋とともに「自分で音程を作って演奏する」という作業を、管・弦両楽器で体験してもらうことになります。ヴァイオリンでも最後に自由曲を1曲演奏する、という実技試験が待っています。



生徒の関心の高い筆箋を使った授業

す。早い生徒はこの頃には越殿樂が吹けるようになります。夏休み明けには自由曲の試験を行いますので、「カントリーロード」や「アメイジング・グレイス」「故郷」など、筆箋の狭い音域に収まるように移調・編曲したサンブル楽譜を配つておきます。

9月には文化祭がありますが、一昨年は有志による「筆箋隊」を組織し、一般公開が終了したタイミングで筆箋で「虫の光」を吹きながら校内を練り歩き一般客の退出を促す、という企画を行い、注目を集めました。

筆箋の授業を行ないながら貯めてきた初心者向けのノウハウを、サンプル曲の楽譜とともにまとめた「筆箋でポップス」という本をKMP出版から出して頂いたのが13年前です。

これは紙タナ
がら版を重ね
現在に至つて
います。一方

で、音域の狭

い筆箋でも吹けるように移調・編曲した。ボツ
バスの楽譜も、その後20曲以上貯まつて来ま
したので、これらをまとめて「筆箋でボップ
ス・曲集編」として近々出版予定です。

都立高校では学校開放事業の一環として一般都民向けに「公開講座」を様々な分野で実施していますが、昨年度本校では「築築でボップス」と称して、授業でやっている内容を4回10時間に凝縮して開講しました。これは今年度も10月に実施予定です。詳しくは東京都のホームページをご覧ください。

佐波理の合成について

洋遊会 上野秀士

以前のことである。ほんものの修理とは何ぞやというところから佐波理は合成できるのかという探求をしてみた。試行錯誤の後、ジヤズ用シンバルをヤフオクで求めて近くのシャシー屋で100本ほどの短冊に整形してもらつた。これで削りだすと確かに音が鳴るまでにはなるのだが削り粉が大量にでる。し

かも3本に2本は失敗するから歩留まりは1%にみたないと思われる。削りだすのに2～3日かかる。これでは一般人が作ってみる領域ではないなと思い、彫金用のローラーで從兄弟の息子に厚さ0・2mmの佐波理の薄板を作つてもらつた。これなら素人でも扱える。なんとか笙のリードの試作をしたい人のために銅合金を調整するという私の目論見は解決がついたように思われる所以、あえて掲載させていただく事にした。店主は大寺康太氏、従兄弟の次男である。問合わせると適度に厚みを調製した幅1cm、長さ30cmほどの薄板を送つてくれると思う。値は数千円でどうかと聞いておいた。興味のある方は問い合わせしてください。

大寺幸八郎商店 富山県高岡市金屋町6-9
Tel 0766-25-1911

かも3本に2本は失敗するから歩留まりは1%にみたないと思われる。削りだすのに2～3日かかる。これでは一般人が作つてみる領域ではないなと思い、彫金用のローラーで從兄弟の息子に厚さ0・2mmの佐波理の薄板を作つてもらつた。これなら素人でも扱える。なんとか笙のリードの試作をしたい人のために銅合金を調整するという私の目論見は解決がついたように思われる所以で、あえて掲載させていただく事にした。店主は大寺康太氏、従兄弟の次男である。問合わせると適度に厚みを調製した幅1cm、長さ30cmほどの薄板を送つてくれると思う。値は数千円でどうかといつておいた。興味のある方は問い合わせして下さい。

少し緩やかに奏し、かつ、太鼓、鉦鼓を用いないことである。「皇帝」は後半序の中の始めの第四拍子の詞「旋律」を除き、その次の句から拍子六の間を用いる。(思うに第三句の神仙の詞「音」より笙、簾築が付ける。足りないときは、初めに返す。これは常の説である。或いは第四の黄鐘の詞「音」に返付ける。これは秘説である。)「春鶯囀」は、初序の中の始めの第四拍子の詞「旋律」を除き、その次の句から拍子四の間を用いる。(初序の終わりに至れば、止める)常の序と異なるのは、句の初めの黄鐘の一声には双調を用いることである。これは易しいからである。(思うに第三句の双調の詞「音」より付ける。足りないときは、第十三句の盤渉の音に返付ける。これは常の説である。或いは最初に返付ける。これは秘説としている。)

揃えて奏するのは難しい。これによつてこれらもまた、退吹というのかもしれない。同名とは言つても、「調子」のように、退吹を法と定めているようなものではない。

近來は、勉めて強いて退吹を習いとしているために、管聲「演奏」が混乱して分別が無くなつてゐる。退ることを求めずに、自然に退になるのは良しとするが、強いてこれを退吹にするときは、私はその良しとするところを知らない。もし絃と管についてこれを謂うならば、強いて退吹にすべきであるか。詳しく述べは絃の巻に記す。(柏光逸と延只拍子の退吹について論じたときに、管でこれを試してみると、まことに古來の説の如くなつた。然るに、これは常にこの拍子「延只拍子」は用いないので、句頭、句切、手指に互いに違ひがあつたが故である。よくこの拍子に

第三十八 退吹の説（P 486）

延只拍子」
「ズ」下がつ
うに「調子」
えようとし
ない。その
まり」とす
退吹を以つて法とする。云々愚「私が」者
えるに、歩行で声楽を演奏するのに、揃えて
吹くのは難しいから自然と退吹になるのであ
ろう。若し、強いて退吹を必ず行うことにして
たら節奏が紛乱して章「樂章」を成さない。
〔退〕の字は古来の楽書には見えず、み左

「序」と「延只・拍子」もまた退吹にするのは「序」は拍子の文が無いため揃えにくく、「延只・拍子」は拍子の文があつても、緩やかにこれを奏し、毎句の末は急に弱く吹き延ばすために、類管「助管」、他管共に少し手指の遅速「遅れたり速くなったりする」があり、

仮名「カナ」で書いている。ある人の曰く、「堂上に並び立つとき、「於女利著」というのがあり、「退」の字を用いているので、奏楽の「於女利吹」にもまたこれを用いた」と。私はその言を是「正しい」として、ここでは「退」の字を用いた。)

夏～秋までの主な雅楽演奏会など

紀尾井ホール（大ホール）
管絃盤渉調子青海波朗詠一星

越殿樂太食調音取長慶子輪鼓揮脱

人長舞敷手納曾利

其駒舞樂還城樂（右）

問合せ Tel 03-3370-1913

星祭 師岡熊野神社（神奈川）

問合せ Tel 045-531-0150

四谷区民ホール

越天樂舞樂胡飲酒雅樂童話「ききみみ

ずきん」休憩中に子どものための体験コーナーあり

演奏 伶樂舎

問合せ Tel 03-5269-2011

西宮神社夏祭

午後7時半～8時半～（2回）

管絃八仙桃李花紫上

舞樂地久

出演回合せ Tel 0797-23-1886

第7回伝統芸能の魅力

大人のための雅楽入門（東京）

チケットプレゼント有り

舞樂蘇利古

出演回合せ Tel 0797-23-1886

京都冷泉家七夕の雅宴乞功奠（愛知）

舞樂輪台

青海波白浜

長慶子

問合せ Tel 06-6214-8260

近江神宮燃水祭

7月7日（金）午前11時

舞樂蘇利古

出演回合せ Tel 0797-23-1886

（滋賀）

越天樂

舞樂原笙会

問合せ Tel 0797-23-1886

S席6千円 A席5千円 B席4千円

愛知県芸術劇場

コンサートホール

雅楽演奏

主韻会

客演豊英秋師

問合せ Tel 052-242-1181

七夕の雅楽

（富山）

7月9日（日）午後2時 無料

高岡市「雅楽の館」

管絃越天樂

朗詠二星

蘭陵王

問合せ Tel 0766-64-0390

十二音会 第39回公演

（東京）

7月9日（日）午後6時半

全指定席5000円

（京都）

雅楽鑑賞会

7月1日（土）午前11時

京都市東部文化会館ホール

管絃越天樂

陪臈舞樂

迦陵頻

拔頭

青海波

演奏平安雅樂会

大阪樂所第35回雅樂演奏会

（大阪）

7月2日（日）国立文樂劇場（大阪）

昼の部午後2時 夜の部午後6時開演

3000円（チケットぴあ・劇場窓口）

管絃双調音取

催馬樂席田

入破

武德樂講師演奏

いちごちゃんのねどり

舞樂輪台

青海波

白浜

長慶子

問合せ Tel 06-6214-8260

（滋賀）

近江神宮燃水祭

7月7日（金）午前11時

舞樂蘇利古

出演回合せ Tel 0797-23-1886

（滋賀）

越天樂

舞樂原笙会

問合せ Tel 0797-23-1886

（滋賀）

舞樂

蘇利古

（滋賀）

越天樂

舞樂原笙会

問合せ Tel 0797-23-1886

（滋賀）

越天樂

舞樂原笙会

<p>武満徹作曲 秋庭歌一具 黛敏郎作曲 昭和天平樂</p> <p>演奏 伶樂舍 指揮 伊左治直 問合せ TEL 03-3200-9755</p> <p>日本フィルハーモニー交響楽団定期公演 (東京) 9月8日(金) 午後7時 C5000円 P4000円 Ys (25歳以下) 1500円</p> <p>石井眞木作曲 遭遇Ⅱ番 雅楽とオーケストラのための op.19 指揮 山田和樹 雅樂 東京樂所 主催 日本フィルハーモニー交響楽団 問合せ TEL 03-5378-5911</p> <p>声明と雅楽による 荘厳の調</p>
<p>チケットプレゼント有り</p> <p>9月9日(土) 午後2時 1等5000円 (学生3500円) 2等3800円 (学生2700円)</p> <p>国立劇場 大劇場</p> <p>出演 声明と天台声明七聲會 9月11日(火) 午前10時より前売開始 問合せ TEL 0570-07-9900</p> <p>日本の響・草加の陣2017 (埼玉)</p> <p>9月9日(土) 午後2時 S席5000円 A席4000円 高校生以下 2000円</p> <p>草加市文化会館ホール (他に箏、太鼓、津軽三味線、などあり)</p>
<p>秋庭歌一具</p> <p>演奏 伶樂舍 指揮 伊左治直 問合せ TEL 03-3200-9755</p> <p>日本フィルハーモニー交響楽団定期公演 (東京) 9月8日(金) 午後7時 C5000円 P4000円 Ys (25歳以下) 1500円</p> <p>石井眞木作曲 遭遇Ⅱ番 雅楽とオーケストラのための op.19 指揮 山田和樹 雅樂 東京樂所 主催 日本フィルハーモニー交響楽団 問合せ TEL 03-5378-5911</p> <p>チケットプレゼント有り</p> <p>9月9日(土) 午後2時 1等5000円 (学生3500円) 2等3800円 (学生2700円)</p> <p>国立劇場 大劇場</p> <p>出演 声明と天台声明七聲會 9月11日(火) 午前10時より前売開始 問合せ TEL 0570-07-9900</p> <p>日本の響・草加の陣2017 (埼玉)</p> <p>9月9日(土) 午後2時 S席5000円 A席4000円 高校生以下 2000円</p> <p>草加市文化会館ホール (他に箏、太鼓、津軽三味線、などあり)</p>
<p>秋庭歌一具</p> <p>演奏 伶樂舍 指揮 伊左治直 問合せ TEL 03-3200-9755</p> <p>日本フィルハーモニー交響楽団定期公演 (東京) 9月8日(金) 午後7時 C5000円 P4000円 Ys (25歳以下) 1500円</p> <p>石井眞木作曲 遭遇Ⅱ番 雅楽とオーケストラのための op.19 指揮 山田和樹 雅樂 東京樂所 主催 日本フィルハーモニー交響楽団 問合せ TEL 03-5378-5911</p> <p>チケットプレゼント有り</p> <p>9月9日(土) 午後2時 1等5000円 (学生3500円) 2等3800円 (学生2700円)</p> <p>国立劇場 大劇場</p> <p>出演 声明と天台声明七聲會 9月11日(火) 午前10時より前売開始 問合せ TEL 0570-07-9900</p> <p>日本の響・草加の陣2017 (埼玉)</p> <p>9月9日(土) 午後2時 S席5000円 A席4000円 高校生以下 2000円</p> <p>草加市文化会館ホール (他に箏、太鼓、津軽三味線、などあり)</p>

舞樂 還城樂 (右舞) 演奏 博雅会 雅城会 ゲスト 豊英秋師 (宮内庁樂部元首席楽長) 問合せ Tel 080-2415-2347 (イワサ)	下鴨神社 大國祭 (京都) 10月15日 (日) 午後1時45分 舞樂迦陵頻 (胡蝶) 還城樂 演奏 平安雅樂会 問合せ Tel 075-781-0010	野宮神社 斎宮行列 (京都) 10月15日 (日) 午後2時 舞樂 納曾利 演奏 平安雅樂会 問合せ Tel 0120-1192-40
日向大神宮 例大祭 (京都) 10月16日 (月) 外宮 午後2時 10月17日 (火) 内宮 午後2時 御神樂 人長舞 演奏 平安雅樂会 上川雅樂会20周年演奏会 (北海道)	上牧・鶴殿ヨシ原を横断 NEXCO西日本による第9回の「鶴殿ヨシ原の環境保全に向けた検討会」が5月17日に大阪で開催された。	5年前(2012年)の4月6日に新名神高速道路(京都府八幡市→大阪府高槻市)の建設着工の決定が内閣でなされ、それから5年が経過。その間10万筆を超える署名(2009年、2014年提出の合計数)を国土交通省に提出したが、残念ながら今年の秋から、上牧・鶴殿ヨシ原を横断する高速道路の建設が始まる。2023年の開通を目指すという。
10月21日 (土) 午後3時半 一般1000円 学生500円 旭川市大雪クリスタルホール音楽堂 管絃 黄鐘調音取 (鳥急) 挑翠樂 越殿樂 神樂 朝日の舞 豊栄の舞 舞樂 胡蝶 りよおう 陵王 長慶子	今後は工事による影響、排気ガスの影響を注視する必要がある。	新刊『美しき雅樂装束の世界』 遠藤徹 著・青木信一撮影 能弱法師 大槻文藏(観世流) 問合せ Tel 0570-07-9900 演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)
問合せ Tel 0166-51-9191 (鎌田) 天王寺 四天王寺 (大阪) 10月22日 (日) 午後1時より 四天王寺太子殿前庭 曲目 未定 出演 天王寺樂所雅亮会(以和貴会) 問合せ Tel 06-6771-0066	★★読者チケットプレゼント★★ ☆大人のための雅樂入門 7月22日 大人のための声明入門 7月22日 国立劇場小劇場 各2名様ご招待 7月8日必着 招待券を送付 ☆舞樂法会 9月9日 國立劇場大劇場 2名様ご招待 8月26日必着 招待券を送付 ☆博雅会雅樂公演北陸 10月14日 じょうはな座ペア5組(10名)様ご招待 9月30日必着 招待券を送付	淡交社刊 A4版95頁 3200円(税別) 本書では、宮内庁式部職樂部の「舞樂」で着用されている著名な演目の装束を特別撮影し、舞台写真をはじめて掲載。それぞれの曲目、装束の解説とともに、美しい写真で後世の和服とは異なる新鮮な魅力を紹介します。また、代表的な装束の衣紋(着付け)の詳細な説明付きで、雅樂装束の構造もよくわかる貴重な一冊です。 ○新刊『雅樂と民謡の図鑑』 国土社刊 A4版79頁 3800円(税別) 小学生を対象とした、イラストを多く使った、分かり易い雅樂の図鑑です。雅樂器の製作の事などは大人が読んでも面白い内容となっています。

★★読者チケットプレゼント★★
☆大人のための雅樂入門 7月22日
大人のための声明入門 7月22日
国立劇場小劇場 各2名様ご招待
7月8日必着 招待券を送付
☆舞樂法会 9月9日
國立劇場大劇場 2名様ご招待
8月26日必着 招待券を送付
☆博雅会雅樂公演北陸 10月14日
じょうはな座ペア5組(10名)様ご招待
9月30日必着 招待券を送付

上牧・鶴殿ヨシ原に新名神高速道路の建設に加えて、焼却炉の建設の計画が浮上し、危機は遠のきましたが、今後このようなことが起きないよう署名活動は続けていきます。「雅樂だより」は今号で50号となりました。原稿や情報を待ちています。

「雅樂だより」第50号 2017(平成29)年7月1日 発行 雅樂協議会 「雅樂だより」編集担当 編集 雅樂協議会 連絡先 東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木治夫) TEL:042-451-8897 FAX:042-451-8897 メール gagakudayori@yahoo.co.jp http://www:gagaku-kyougikai.com/	購読料(年)(4回発行)2千円(送料込) 【口座番号】00140-5-614032 【加入者名】雅樂協議会 までお振込みください。ご記入頂いた住所に「雅樂だより」を送らせて頂きます。
---	--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部
--

新刊など
「新刊『美しき雅樂装束の世界』
遠藤徹 著・青木信一撮影
能弱法師 大槻文藏(観世流)
問合せ Tel 0570-07-9900
演奏 天王寺樂所雅亮会(以和貴会)



雅樂の樂器・譜面ほか 株 武蔵野樂器 〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 Fax 03-5902-7282 「雅樂だより」編集部

<tbl_r cells="1" ix="1" maxc